

2019 アートマイル国際協働学習プロジェクト 報告書

日本学校名 [横浜市立瀬谷さくら小学校] 担当教諭名 [本田 篤] (6年1組 39名)

相手国・地域 [マダガスカル]

海外学校名 [Lycee Ambatolampy] 担当教諭名 [Caroline Razafimanantsoa / 藤井和歌子(JICA)]

■実施教科・時間数について教えてください。

	教科	単元名	時間数
アートマイルに関連した 実施教科・時間数	総合的な学習の時間	アートマイルプロジェクト	65

■作品に込めた想いについて教えてください。

題 (テーマ)	教育・水・トイレ
メッセージ (相手と想いを合わせて 世界に発信したいメッセージ)	世界みんなが安心して暮らせるようにしていきたい



■今回の取り組みの成果と課題はどういった点でしょうか？

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"> ・日本とは異なる国の生活を知ること、自分たちがいかに恵まれた環境にいるかを理解することができたこと。 ・「伝える」ということの難しさ、伝えられたときのうれしさを実感できたこと。 ・クラスで協力して一つのことを成し遂げられたこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・意欲の高い児童にとっては、非常に深い学びとなったが、意欲がなかなか高まらない児童もいたこと。

■アートマイルに取り組む前と比べて相手の国・地域や世界に対して意識はどう変わりましたか？

児童生徒の意識の変化	教師の意識の変化
<p>初めのうちは、相手の国の現状に対して「かわいそう」「募金してあげたい」という気持ちを抱けただけだったが、調べたり交流したりするうちに、相手の国の生活を認める考えをもつ児童が増えた。さらに、自分のできることは、自分の生活を見直していくことや学習をしていくことだと考えるようになった児童が増えた。</p>	<p>多少知っているつもりになっていた世界の現状について、実際の状況を知ること、いかに自分が知らないことばかりであるかということを知った。子どもたちに教えるのではなく、一緒に学ぶという形で学習を進めることができたのはよい経験になった。</p>

■主な活動の流れを教えてください。

場面	時期	活動内容	児童生徒の反応	実施教科等
出会い 自己紹介	5月 6月	一人一人の英語での自己紹介と日本の文化紹介の映像を撮影し、編集してまとめたものを送った。マダガスカルからも同様のものが届き、それを鑑賞した。	英語で話すことのハードルが高く、難しいと感じている児童が多かった。しかし、マダガスカルからの映像を観て「楽しく表現していていいな」と感じ、気持ちが変わった児童も多くいた。	総合15
共有 テーマ学習	7月 ～ 10月	学習のテーマ「教育・水・トイレ」の3つのグループごとに、日本の現状を調べ、動画にまとめて相手に送った。マダガスカルからも動画をもらい、みんなで鑑賞した。	言葉が通じない相手にどう伝えればいいのか悩む児童が多かった。画像・数字・記号など誰にでも通じるものがあることに気付き始めた。マダガスカルの生活に驚く児童が多かった。	総合18
融合 メッセージ作成	10月	お互いの動画を見て質問したいことを相手に事前に知らせ、テレビ会議でその回答を伝え合った。その後、「伝えたいメッセージ」を話し合って決めた。	初めてのテレビ会議ではとにかく緊張している児童が多かった。挨拶が通じると次第にリラックスして交流を楽しんでいた。全員の想いがメッセージに含まれるように言葉選びをしていた。	総合15
創造 壁画制作	11月	メッセージが伝わるように、各自のイメージを一つの絵にまとめた。さらに3つのグループごとに作業分担をして、壁画制作に取り組んだ。	みんなの想いを一つの絵にする段階の話合いが最も大変そうだったが、構想が練り上がると、後は協力して毎時間生き生きと楽しそうに取り組んでいた。	総合15
評価 振り返り 自己評価	2月	完成した壁画をみんなで鑑賞した。各グループで振り返りを行い、その後個人での自己評価を行った。	マダガスカルからの絵の到着を心待ちにしていた。完成品を全員で見たときには、壁画の迫りに感動する児童も多かった。	総合2

■アートマイルでついた力について教えてください。

評価 (5:とてもついた 4:ついた 3:どちらともいえない 2:あまりつかなかった 1:つかなかった)

学習目標・つきたい力	評価	先生が手応えを感じた場面・理由
自文化を理解する力	4	知っているはずだったことも、相手に伝えようとするとは実はあまり知らなかったということに初めて気づく児童が多かったから。
異文化を理解する力	4	初めのうちは、「かわいそう」という感想が多かったのだが、その内「それが現実」ということがわかっていろいろと考え始める児童が増えたから。
情報活用能力 (収集・まとめ・発信)	4	情報について、自分たちがよく理解していないと相手に不確かなことを伝えることになるということを実感する児童が増えたから。
コミュニケーション力 (双方向・共感・英語)	4	言葉が通じない分、とにかく一つ一つのことにならずいたり、ジェスチャーをしたり、相手の反応を気にしたりしていたから。
批判的に思考する力 (客観的・論理的視点)	2	批判的に思考する力が育つレベルまでの交流の深まりができなかったから。
主体的に考え行動する力	4	曖昧なことがないようにしなければという気持ちと、常に期限が迫る状況だったことなどから、児童は自分で考えてよく行動していたため。
他者と協働する力 (学級内・海外の相手)	5	特に、壁画制作の時には、グループ内でよく声をかけあい、リーダーを中心に学級が一つになって活動していたから。
想いを言葉や形にする力 (メッセージ作成・壁画制作)	4	メッセージも壁画も「みんなの想いが含まれる」ことを条件にしたため、友達の話をよく聞いて考える場面が多かったから。
評価する力 (作品の鑑賞・学習の自己評価)	4	完成した壁画を見ながら、自分たちが1年間かけて歩んできた道のり、身に付けたことをよく考えて評価することができていたため。